天

改自

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 7年 1月 7日

事業所名　児童デイサービスアップル

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	時間ごとに活動内容を変え、各エリアに適切な人数が置かれるようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	適切である。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	55%	45%	建物の構造上できていない。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%	0%	社員のみ参画しているが、回覧の資料の共有はしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	評価表ではないが、使用連絡ツールによりご意向やご要望を適宜お聞きし、業務改善に繋げている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	82%	18%	毎年公開している。	公開していることをスタッフに周知する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	70%	30%		社内の他事業所スタッフからアドバイスをもらう。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	定期的に必要な研修を受けている。（オンライン等）	
適切な支援の	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	定期的に面談をおこない、支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	91%	9%	発達検査の結果などを保護者に共有してもらっている。	新規利用契約時に保護者に書いてもらっている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	90%	10%		いつも社員のみで話し合うのでアルバイトスタッフにも意見を聞く。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	前回来所された記録を確認しながら計画している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	91%	9%	平日にはできない外出やおやつ作りなど、休日や休暇中に取り入れている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	必要に応じて、個別・複数活動の計画を立てている。	

の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼時に打合せをし、内容を議事録にして全員が回覧・確認できるようにしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	91%	9%	重大事項はその日のうちに振り返りができている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	担当児童の様子や気になった出来事、支援計画に基づく活動の進捗など、毎日記録している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的にモニタリングを実施し、計画の見直しをはかっている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	100%	0%	朝礼時来所児童とスタッフの確認をし、スケジュールを立てている。朝礼議事録やスケジュールボードにて再度確認できる。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	学校から子どもの様子を引き継ぎ、気になった点は保護者に伝えている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	89%	11%	対象児なし。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	90%	10%	関係機関と連絡を取り合うことや、保護者を介して情報共有することをしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	90%	10%	障害福祉サービス事業所が見学に来られたり、情報共有の連絡を取り合ったりしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	70%	30%	研修に参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	50%	50%	公園遊びの際、同じ遊びに加わることもある。 地域のお祭りや区で行われるイベントなどへ参加している。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時に本日の様子や出来事を共有し、保護者から事業所外での様子もお聞きしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	70%	30%	保護者からの相談に対応しており、助言も行っている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	使用連絡ツールで都度お伝えしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	年に一度、保護者会を開催している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	顔や服装で個人が特定されないよう配慮している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	50%		作品展に招待する。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	91%	9%	保護者に周知できていない。	会報や活動報告で周知する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年に二度防災訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	91%	9%	虐待に関する研修を定期的に行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	70%	30%	対象児なし(身体拘束の許可をもらっている児童はいない)	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	73%	27%	保護者を介しての対応。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	迅速に作成し回覧している。	